

平成29年度第1回委員会(11月29日)での意見と対応等一覧(概要)

	意見	対応等
(1) 部材調査結果等について		
1	第一次世界大戦時、ドイツ軍捕虜を収容するために間仕切りを造ったという記述もある。移築時だけでなく、その間にも変化があることも十分考えられるため、その辺りも考慮して欲しい。	ご意見の通り、詳細な調査を行う際に留意する。
2	使用工具を見ると、明治4年と明治27年は同じものである。例えば、明治27年に同じ工具を用いて、新しく造作したことも考えられるが、何か物理的な違いは確認できるか。	現時点では、部材格納時の調査結果のみであり、詳細な調査までは行っていないところである。 物理的な痕跡としては、床板について、一度化粧仕上げした後に、角釘を打ってリノリウムが張られている。角釘が明治27年のものであるため、その下の使用痕は明治4年のものと分かる。他にペンキの塗装の層など、科学的分析が出来れば、時間はかかるが当初のものなどは分かる。いずれにしろ、小屋組みの一体感などから、部材を付け足したなどではなく、解体して造りなおしたと考えるほうが合理的であると考えている。
(2) 資料について		
1	修復が不可能な資料はどの程度あるか。	精査中である。可能な限り資料を特定し、修復か廃棄かの判断を行いたい。
2	寄託や寄贈された資料もあったと思うが、状況はどうか。また、写真類はどのような状況か。	精査中である。写真類については、そのまま再度展示することは難しいものもある。今後展示等の検討の中で、改めてデータ提供等を依頼するなど検討していきたい。 ※写真類はすべてデータ提供等による写し
3	部材だけでなく、資料も良く残っているという印象。再出発するには良い状況であると思う。	—
(3) 復旧にあたっての基本的な考え方		
1	国の補助は文部科学省か、文化庁か。	文部科学省の補助である。
2	(移築復旧について) 今後の利活用を考えれば、現在地から芝生広場への移築は重要な決定であると思う。賛成である。	—
3	(移築復旧について) 諸条件の中で市が決定した方針であれば仕様が無いと思う。但し、今回移築すれば5ヶ所目になる。5ヶ所分の情報を背負ってジェーンズ邸は生きて行かなければならなくなる。その中でも、最も重要な当初の位置をPRすることをやって欲しい。もちろん、2番目・3番目も重要であるが、当初の位置はジェーンズ邸が建っていたということだけでなく、熊本の近代化が始まった場所でもある。そういったことをPRして欲しい。	—
4	(移築復旧について) 本来、ジェーンズ邸があった古城の位置での建設が事実上難しいのであれば、あとはどこにあっても大差ないと思う。 周囲の水前寺公園やあとに残された夏目漱石第三旧居や近隣の江津湖などの文化的な施設等とどうつないで、関心のある方々や観光客に見ていただくのかという、もう少し広いエリアでの計画を立て、そこへ向かっての整備をすべきである。つまり単なるジェーンズ邸の修理工事に終わらせず、周辺の整備にも力を注ぐべきと考える。	—
5	(移築復旧について) ジェーンズ邸そのものにどういう役割を期待されるのか。歴史性とこれらの未来をどのように考えるのか、そういった部分を議論していくべきだろう。	—